

## 2021/8/21「中部オンライン・フォーラム」参加者の感想集(ML 発信分)

.....

【日時】 2021年8月21日(土)13:30-17:00(17:30-懇親会)  
【会場】 オンライン(Zoom)開催  
【担当】 松井 由紀 理事  
【講師】 網野 禎昭(あみの・よしあき)氏 法政大学デザイン工学部教授  
【タイトル】 「ヨーロッパ の木造建築から『木と建築と社会』を考える」

.....

### 【1】

To テクノ未来塾の各位

From 池本

こんにちは。

昨日のオンラインフォーラムはありがとうございました。

木造建築、林業から、日本社会の在り方を考える  
大変良い機会になりました。

このような機会を準備して下さった、理事の松井さんはじめ  
事務局の皆さんには感謝を申し上げます。

以下、簡単ですが感想です。

#### ○ テーマ

「ヨーロッパ の木造建築から『木と建築と社会』を考える」

#### ○ 講師

網野禎昭氏 法政大学デザイン工学部教授

#### ○ 感想

今回のお話を伺って感じたことは、人口が減少していく日本において  
社会の在り方を少品種大量生産型から、多品種少量生産型に切り替えていく  
必要ではないかという事でした。

少品種大量生産型の社会では、分業制によるメリットがありますが、  
多品種少量生産型であれば、分業ではなく統合によるメリットが出てきます。  
これより、トータルでエネルギー効率（広い意味での）を高める工夫が  
出来るようになるのではないかと思います。

（個別最適を追及し過ぎて、全体最適が出来ていない状況からの脱却）

一方、我々消費者側としては、その為にコストパフォーマンスの呪縛から逃れて、  
自分が価値のあると思ったものには、相応の対価を払うという事が必要だと思います。

その為には、経済、心の両面にある程度の豊かさが必要だと思いますが、現在の賃金が上がりにくい日本において、直ぐには解決が難しいかもしれません。

一方、公共施設等であれば、短期のコストに捕らわれずに長期視点での産業育成や豊かさにつながる判断をしやすいと思うので、そこから変えていくことが大切だと感じました。

(いわゆる無駄に豪華な箱モノを作れというわけではなく)

その他、先生のご講演から、様々な気づきがありましたが、日本に比べて欧州は長期視点で考えて行動しているなど、改めて感じた日でした。特に山間部の小集落のエネルギー効率の良い運営スタイルは驚きでした。

以上。

.....

## 【2】

To テクノ未来塾の各位

From 齋藤 一樹

池本さんのフォーマットお借りして感想を投稿します。

### ○ テーマ

「ヨーロッパの木造建築から『木と建築と社会』を考える」

### ○ 講師

網野禎昭氏 法政大学デザイン工学部教授

### ○ 感想

日本は大量生産の昭和のスキームを抜け出せないで令和の時代まで来てしまっているのが木材産業の大部分なのだな、というのが感想です。

その現状に厳しい意見を言いながらも、一人からでも変革しようとする網野先生の志が熱かったです。

木は有機物でありながら無機物として扱うのが楽なので、日本では木の良さ、木を真の意味で最大限に生かすというのをできていない、価値と価格があっていないのがもどかしいですね。

温暖化防止の切り札であり、資源にもなり、建材や木工材料にもなり、アートにもなり食器にもなる。

SDGsの話も塾生から上がりましたが、そういった価値にどのくらいお金を集められるかというところがポイントのように思いました。

QoL、Well Being、地球の自然とともに生きる、という地球人の原点に戻る価値を私も見いだしていきたいと思いました。

以上。

.....

### 【3】

テクノ未来塾 8/21 フォーラム参加された会員・塾生御中

8/21 のフォーラム参加、ありがとうございます。

阿部先生、長谷川さん含め、27 人の参加となりました。

先生のおだやかな口調にも関わらず、話しても話しても話し足りないという感の熱意

参加者からの次から次へと出てくる質問

とても有意義なフォーラムでした。

私も建築関係の人間ですが、知らないことの方がずっと多く、大変勉強になりました。

参加できなかったみなさま、

すでに何名かのかたがメーリングに発信くださっていますが

詳細な開催報告はまた改めてさせていただきます。

松井由紀

.....

### 【4】

中東です。

東京は何度目かの非常事態宣言継続中で、在宅勤務の引籠り生活も凡そ1年半と

なりますが、窓の外の雲や陽射しの角度、夕方に見かけるトンボに、季節だけは

進んでいることを感じます。

8/21 のフォーラムでは、均質・安定生産・コストパフォーマンスの世界にとらわれ、

凝り固まってしまったところに、大いに刺激を受けました。

みんなと、モヤモヤと、何から始めたらいいんだらうねって、一緒に悩むのって楽しい

ですね。

.....

### 【5】

皆さまへ

こんばんは、TEL 中谷です。

ちょうど1週間過ぎましたが

8/21 に開催された未来塾オンラインフォーラムの感想などです。

林業や建築業は自分の業務からはかけ離れたところにあります。

ところが社会との繋がりという視点からは実は身近な話であることだと考えさせられました。

ヨーロッパではコンパクトで持続可能な社会がある程度うまく行っているのに

日本で進める地方のコンパクトシティーは悉く失敗している感があるのとは対照的です。

網野先生は話が非常にうまく、内容も非常に面白かったです。

ありがとうございました。

おまけ

8/22 にふらりと、上野原（山梨の東端）に行きました。

駅の前を流れる桂川には土場（木材の集積場）の跡地がありました。

考えてみれば、川の上流に森林があり、ここから川に材木を流せば相模湾まで行く。

材木の運搬は、道路がなくても簡単に行える仕組みになっていたことがわかります。

以上

.....

## 【6】

未来塾の皆様へ

中條屋です。

8/21 に開催された未来塾オンラインフォーラムのお礼と感想です。

まずはじめに、貴重な機会を提供して頂いた網野先生、松井理事、準備して頂いた皆様に感謝します。

今回のテーマは普段全く考えることのない領域で、視点の違いと認識の違いを気付かされました。

ヨーロッパの中山間地域の風景をみて「綺麗だなあ〜」としか思っていませんでしたが、集合住宅になった理由と経緯、そしてそれが生活様式や食文化にも影響していることを、建築の視点から深掘りされており、なるほどそういうことだったのか！ と点が線に繋がる感覚でした。

また、CLTは低品位材を上手く活用してコスト、性能、SDGs的にも優れたモノとと思ってましたが、実はそうではないという現実を知りました。

グローバルで見ると生産適地ではない日本の林業かもしれませんが、国産材の機能や価値をどのように見出していくか、或いは向上させていくか、そして、それを一般消費者に上手く見せて広めていくか、がポイントと感じました。

例えば、鉄鋼業に携わる金属材料屋の視点で木を工業用素材としてみたとき、生物資源であるが故に

- ・構造体としての性能（強度、耐久性、均一性）が良く分からない
  - ・・・節や虫食いの影響は？ 個体差はどの位？ 経時劣化はどの位？ など
- ・安定的に同じものを入手できるかどうか分からない
- ・加工と利用のノウハウが分からず難しい
  - ・・・経時的な反りがどうでるか？ どっち向きに使うのがよい？  
どういう木のどういう部位をどこに使うのがよい？  
長持ちさせるにはどういう管理やメンテが必要？ など
- ・日本の木の良さや無垢材の良さがよく分かっていない

など、分かりにくい部分が多いように感じます。

そもそも、そんな難しいことが分からなくても身近に利用できるものだったり、そんなことは普段の生活の中で自然に習得できたことだったかもしれませんが。

これから消費者と直接繋がることで、まだまだやるべきこと、やれることが沢山ある気がします。

SDGSを上手く追い風にして、日本の山、生物、水、雇用を支える林業で何かイノベーションが起こせないか、これからこの分野に少し関心を向けて考えてみたいと思います。

以 上

.....

## 【7】

松嶋@兵庫（化学）です。

先週は網野先生の大変興味深いご講演を聞くことができ、先生ならびに松井さん、ありがとうございました。

ご講演はヨーロッパの歴史的背景からはじまり、郊外でも人々は集合住宅に住むのは、暖房用の木材が貴重なため断熱性を重視するためということで、私もマンションの中部屋に住んでいるのでそのとおりでな思いました。

先生のお話の中で、印象的だったのは、日本は、森林の木々が早く生長し、しかも多種多様な樹種が「栽培」可能で、しかも、伝統技術として、様々な過木材加工技術や低品位木材も有効利用できる技術を伝統的に持っており、恵まれた条件が揃っていることがわかりました。それにも関わらず、戦後の杉に偏った植林政策、その後の間違った環境保護運動、21世紀になってからの現状の見ない補助金漬けの大規模化政策によって歩留まりが悪化して林業が採算の取れない産業へ追いやられたことなどで存亡の危機に瀕していることが理解できました。

林業は、時間のかかる取り組みが必要であるため、これからそれを是正していくのが不可能に感じられるほど大変であることが実感できました。それにしても、優位性があるのにそれが全く活かさないのは歯がゆい感じがいたしました。

次回もし機会がありましたら、日本の福井県での取り組みや実情の話を知りたいとも思いました。

最後に、先生が設計された先生の住宅のご紹介は、聴衆にとっても夢のある話で、建築系の講師のお約束とも言えるものをして頂き、満足する事ができました。

.....

## 【8】

8/21は網野先生のご講演、参加者の問題意識・感度の高さ、松井さんの仕切りと幹事フォロー、これらが非常にうまくかみあって熱気あふれるフォーラムになったと思います。懇親会で、網野先生はノンアルにもかかわらず「最高！」とおっしゃって、講師ご自身高揚感が伝わってきました。

担当理事・幹事団、ご参加の皆様、ありがとうございました。

松井さんからはすぐに網野先生にお礼メールが発信され、そのやり取りにもお互いの感謝の気持ちが溢れていました。

MLに感想を発信して下さった皆さま、ありがとうございます。あまりに素晴らしいので、ホットなうちにと都度、網野先生に転送ご案内いたしました。

網野先生からのメッセージを以下に転載ご紹介いたします。 (事務局・長谷川)

◎《網野先生からのメッセージ》

\*\*\* \*\*

◎

皆様のコメントを転送していただきありがとうございます。

日本の山の窮状を知っていただくこと、そこから何とかしなければという気持ちが生まれること、たいへんうれしいことです。

この度は、松井様に素晴らしい機会をいただき、感謝しております。

福井の工務店の情報なども提供できます。

また、拙宅を見たいとご希望の方がおいででしたら、喜んでご案内いたします。遠方で申し訳ないのですが。

網野禎昭

◎

福井についてですが、なぜ県内完結を維持できているのか、その経緯についてははっきりわかりません。

おそらく、人口が少なく小さな地方社会であることに加え、親が子の家づくりを決めるという保守的な風土であることが考えられます。

ですので、外部業者が入って来づらく、住宅は地元工務店の設計施工で伝統色が強いものとなります。

親の言いなりに家は建てないという若者も増えており、世代交代が進み、家に対するニーズが変化した時にどうなるのか？が福井の課題だと思っています。

(毎年、福井に通っては、伝統的な技術でも新しい物はつくれます、という講義をしています)

\*\*\* \*\*